

補強提案書

【耐震診断法の適用範囲について】

・本ソフトは、3階建てまでの在来軸組構法、伝統的構法、枠組壁工法の木造住宅、立面的な混構造（1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造）の建物の木造部分を想定して作成されています。

※耐震診断法は、比較的矩形な総2・3階建てを想定して作成されています。そのため、2階が二つに分かれている建物や、平面形状がコの字型など、著しく不整形な建物について、本プログラムで診断することは不適切です。

※下記の建物は適用範囲外です。

丸太組構法、旧38条認定および型式適合認定によるプレハブ工法住宅、平面的な混構造、スキップフロア

【本ソフトの適用範囲について】

・本ソフトでの耐震診断は、階高3.4m程度までの建物について適用して下さい。

【結果を読むに当たっての注意事項】

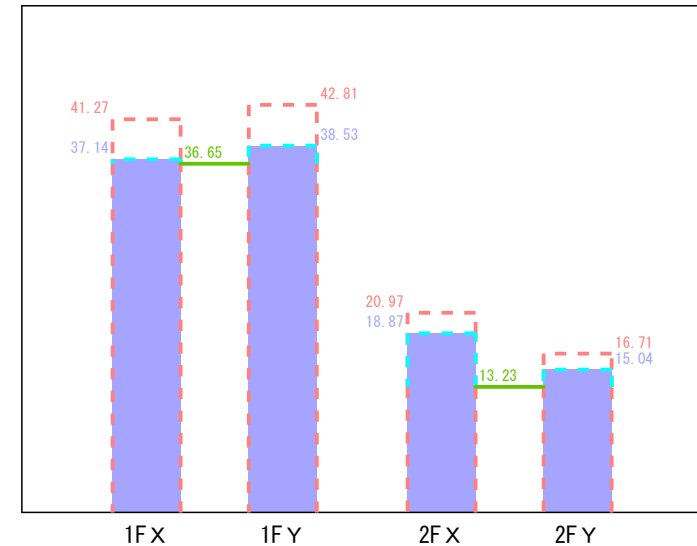
- ・本診断書における在来軸組構法・枠組壁工法診断時の「その他の耐震要素の耐力 Q_e 」は、有開口壁長より算出しています。
- ・N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

総合評価

あなたの家の強さ(保有・必要耐力)

単位: k N

Qu 必要耐力 壁・柱の耐力 保有耐力



◆建物概要

建物名称	木耐協研修所 邸			建物階数	2
建築地	埼玉県川口市安行領根岸2282-105			診断の方法	方法1
備考				低減係数E	偏心率
構法	在来軸組構法			軟弱地盤割増係数	1.0
1階構造種別	木造			竣工年月	1972年1月(昭和47年)
外壁材種	仕上げなし			築年数	築10年以上
基礎仕様	無筋コンクリート			建物重量	重い
柱頭柱脚接合部	Ⅲ,Ⅳほぞ差し、釘打ち、かすがい等			混構造割増係数	1.0
下屋部低減係数	平屋建てもしくは最上階として計算する			積雪	0.0
必要耐力計算表	精算法(各階の床面積比を考慮した方法)			地域係数Z	1.0
床仕様	Ⅲ 火打ちなし(想定床倍率0.5未満)			形状割増	2階 4m未満
床面積	2階	23.19㎡	(7.01坪)	短辺の長さ	1階 6m以上
	1階	41.82㎡	(12.65坪)		

■上部構造の評価

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置 eKfI	劣化度 dK	保有耐力 (kN) edQu=Qu・eKfI・dK	必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	判定
2F	X	20.97	1.0000	0.9000	18.87	13.23	1.42	一応倒壊しない
	Y	16.71	1.0000	0.9000	15.04	13.23	1.13	一応倒壊しない
1F	X	41.27	1.0000	0.9000	37.14	36.65	1.01	一応倒壊しない
	Y	42.81	1.0000	0.9000	38.53	36.65	1.05	一応倒壊しない

総合評価

上部構造評点のうち最低の値	評点	判定
1.01	1.5以上	◎ 倒壊しない
	1.0以上~1.5未満	○ 一応倒壊しない
	0.7以上~1.0未満	△ 倒壊する可能性がある
	0.7未満	× 倒壊する可能性が高い

注意事項: 地盤・基礎

地盤・地形・基礎	対策	注意事項
地盤:よい・普通		特に問題はありません。
地形:平坦		特に問題はありません。
基礎:無筋コンクリート	ひび割れが生じている	

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

地盤・基礎

地盤	対策	記入欄	注意事項
よい/普通		○	特に問題はありません。
悪い			
非常に悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている		
	杭基礎である 特別な対策を行っていない		

地形	対策	記入欄	注意事項
平坦・普通		○	特に問題はありません。
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積 特別な対策を行っていない		

基礎形式		記入欄	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物が不同沈下しています。地盤改良などにより改善をはかる必要があります。 ・ アンカーボルト、引き寄せ金物が十分な性能を発揮できない場合があります。こうした箇所には補強が必要です。 ・ 地震時に、基礎が曲げ破壊し上部構造の性能を十分に発揮できない可能性があります。鉄筋コンクリート基礎などを添えて基礎を補強する必要があります。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全		
	軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている	○	
玉石基礎	足固め・底盤		
	足固めなし		
その他 (ブロック基礎等)			

木耐協研修所邸

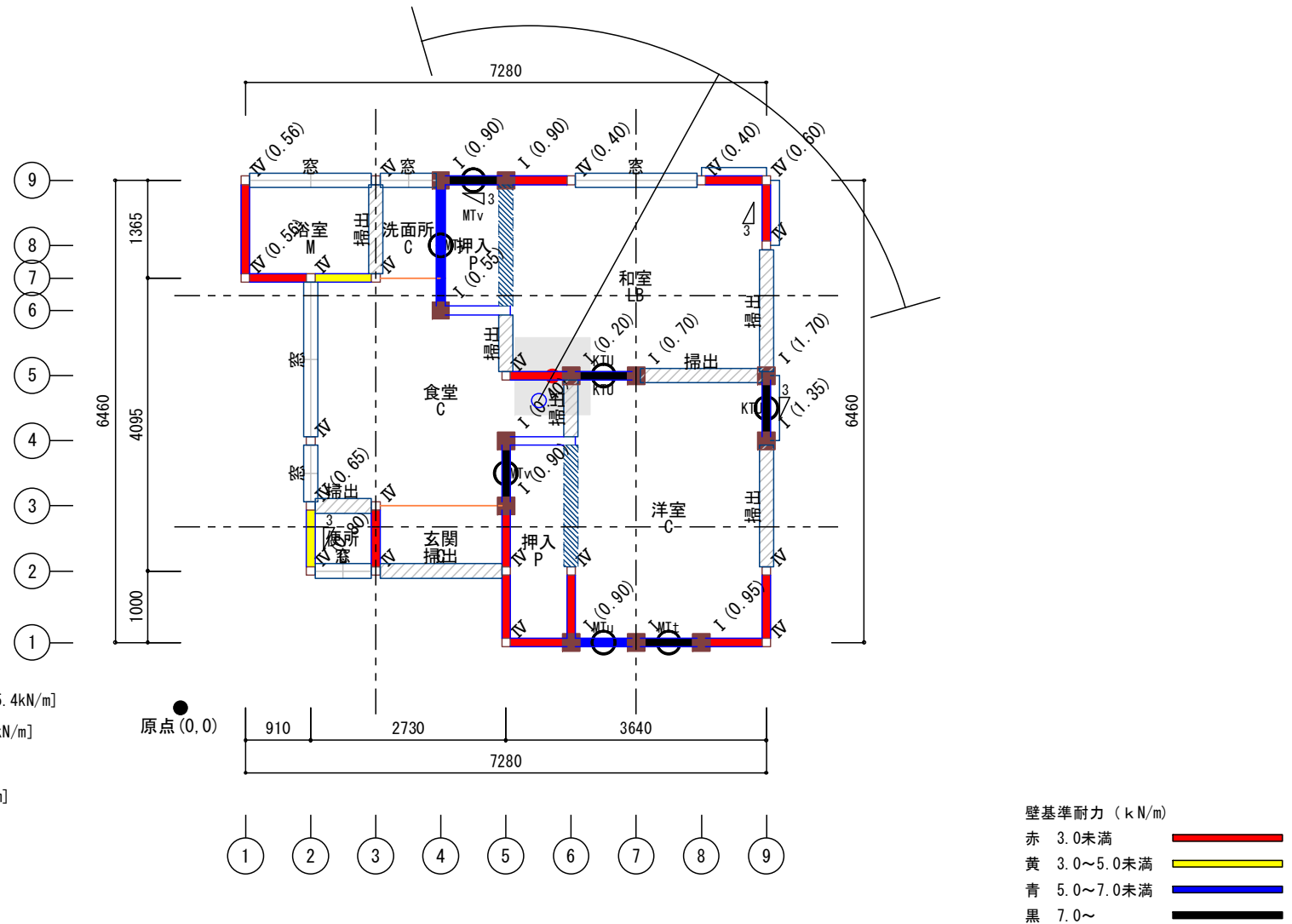
診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階平面図



木耐協研修所邸

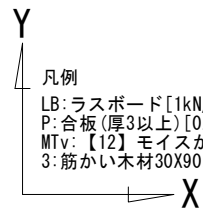
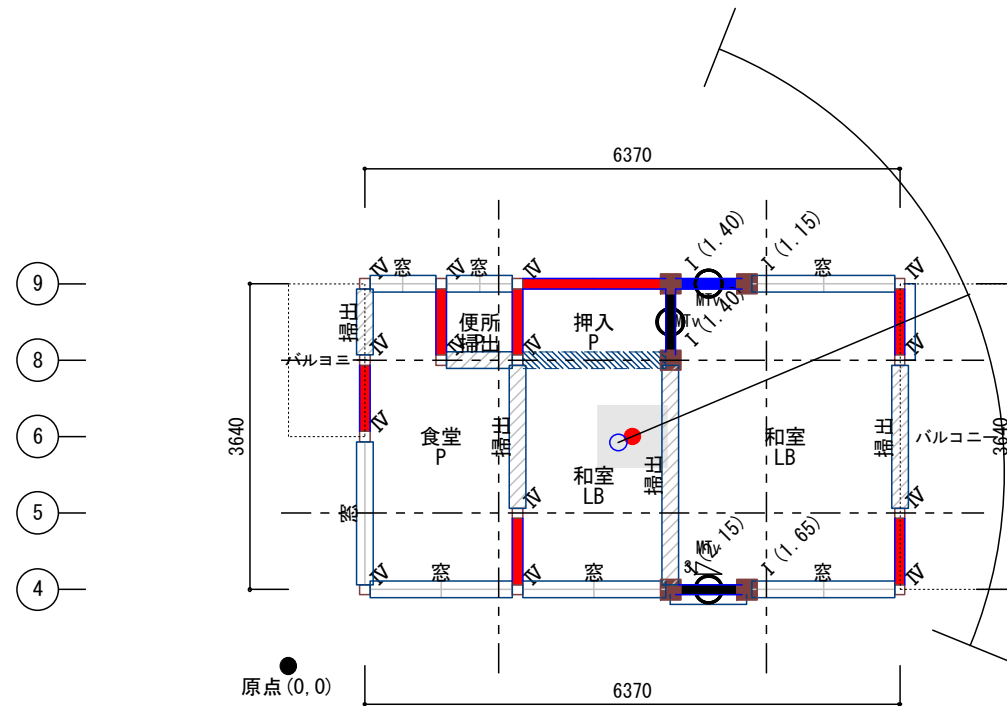
診断書作成日時: 2026年04月09日 15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

2階平面図



凡例
 LB: ラスボード [1kN/m]
 P: 合板(厚3以上) [0.9kN/m]
 MTv: 【12】モイスかべつよし真壁v [6.9kN/m]
 3: 筋かい木材30X90以上 釘打ち [1.9kN/m]



壁基準耐力 (kN/m)

赤	3.0未満	
黄	3.0~5.0未満	
青	5.0~7.0未満	
黒	7.0~	

木耐協研修所邸

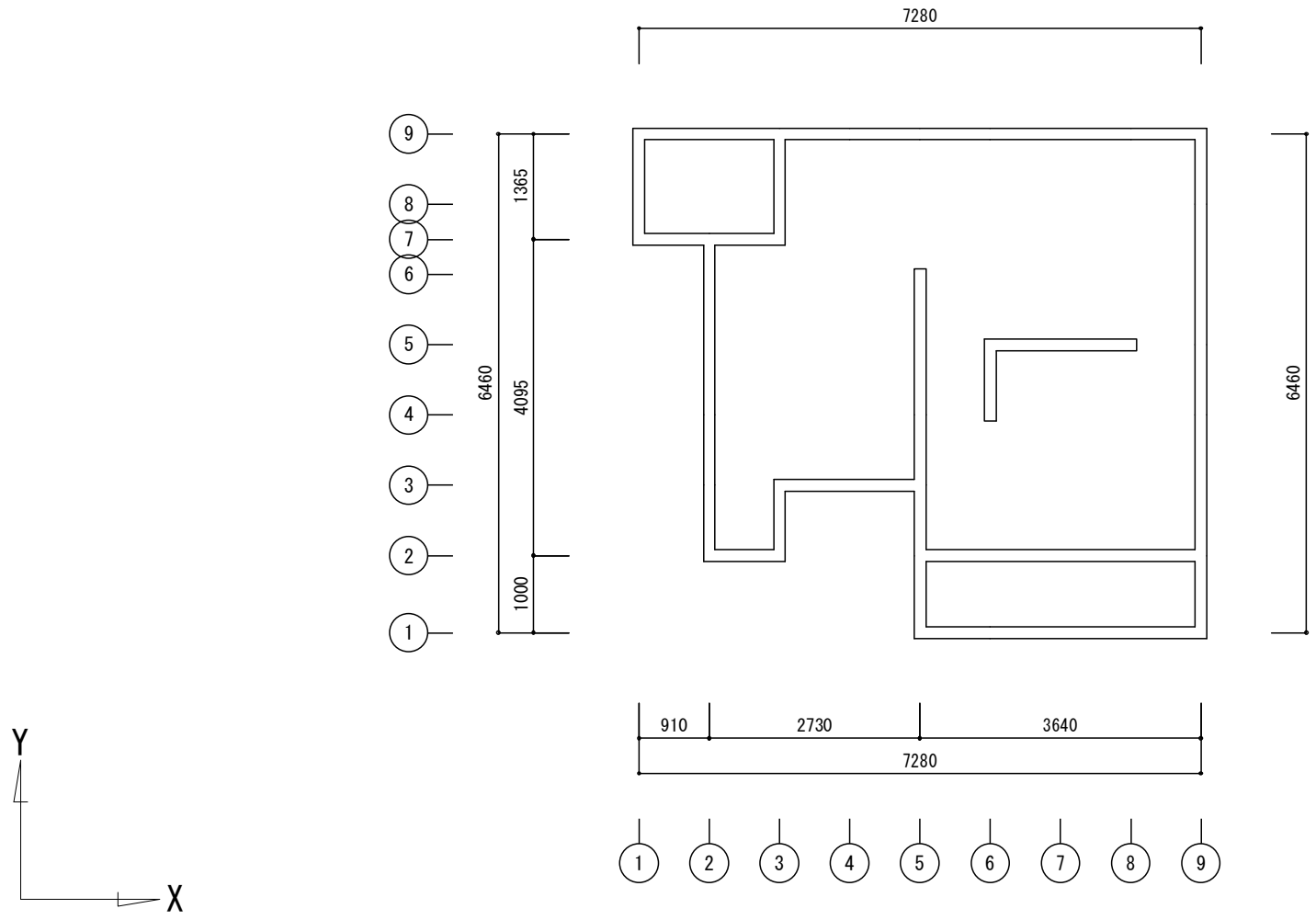
診断書作成日時: 2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
 本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。
 N値計算の結果については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

基礎伏図



木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

必要耐力の算出 [重い建物]

	床面積 (㎡)		床面積あたり 必要耐力 (kN/㎡)		積雪用 必要耐力 (kN/㎡)		地域係数 Z		軟弱地盤 割増係数		形状 割増係数		混構造 割増係数		必要耐力 Q _r (kN)
2階	23.19	× (0.5705	+	0.0000) ×	1.0	×	1.0	×	1.00	×	1.0	=	13.23
1階	41.82		0.6741		0.0000						1.30				36.65

床面積当たりの必要耐力算出根拠

$Rf1 = 2 \text{階床面積} / 1 \text{階床面積} = 0.5545$

$QKf12 = 1.3 + 0.07 / Rf1 = 1.4262$

$QKf11 = 0.4 + 0.6 * Rf1 = 0.7327$

2階建の2階 = $0.40 * QKf12 = 0.5705$

2階建の1階 = $0.92 * QKf11 = 0.6741$

木耐協研修所邸

診断書作成日時: 2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様		Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe
桁行 (a)	7	1-2	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20	2.20	x	③ 0.6800	x	0.9100	III	IV	=	1.36	13.53			16.25
	7	2-3	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20													
			C	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	3.30	x	② 0.7850	x	0.9100	III	IV	=	2.35				
	9	4-5	3 MTv	筋かい木材30X90以上 釘打ち 【12】モイスかべつよし真壁v	1.90 6.90	8.80	x	② 1.0000	x	0.9100	I	I	=	8.00				
	9	5-6	LB	ラスボード	1.00	1.00	x	② 1.0000	x	0.9100	III	IV	=	0.91				
	9	8-9	LB	ラスボード	1.00	1.00	x	② 1.0000	x	0.9100	III	IV	=	0.91				
	9	1-4		窓型開口		0.60	x		x	2.7300			=					
	9	6-8		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=		1.09	2.72		
桁行 (中央)	5	5-6	LB	ラスボード	1.00										10.06			10.60
			C	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	2.10	x	② 0.9800	x	0.9100	III	IV	=	1.87				
	5	6-7	KTU KTU	ラスボード 【2】MDFかべつよし大壁入隅U	1.00 8.00	9.00	x	② 1.0000	x	0.9100	I	I	=	8.19				
	5	7-9		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=		0.54	0.54		
桁行 (b)	1	5-6	P	合板(厚3以上)	0.90	0.90	x	③ 1.0000	x	0.9100	III	IV	=	0.81	14.42		0.00	14.42
	1	6-7	MTu	【9】モイスかべつよし大壁入隅u	6.80	6.80	x	③ 1.0000	x	0.9100	I	I	=	6.18				
	1	7-8	MTt	【8】モイスかべつよし大壁t	7.10	7.10	x	③ 1.0000	x	0.9100	I	I	=	6.46				
	1	8-9	C	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	1.10	x	③ 0.9700	x	0.9100	III	IV	=	0.97				
合計														38.01			3.26	41.27

木耐協研修所

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (1階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様		Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe	
梁間 (イ)	1	7-9	M	木ずり下地モルタル塗り	2.20	2.20	x	③ 0.6800	x	1.3650	III	IV	=	2.04	5.03	1.80	1.80	6.83	
	2	2-3	3 C	筋かい木材30X90以上 釘打ち 石膏ボード張り(厚9以上)	1.90 1.10	3.00	x	③ 0.6000	x	0.9100	III	IV	=	1.63					
	3	2-3	C C	石膏ボード張り(厚9以上) 石膏ボード張り(厚9以上)	1.10 1.10	2.20	x	③ 0.6800	x	0.9100	III	IV	=	1.36					
	2	3-7		窓型開口		0.60	x		x	3.0000			=						
梁間 (中央)	4	6-9	MTy C	【13】モイスかべつよし真壁添え柱y 石膏ボード張り(厚9以上)	5.40 1.10	6.50	x	② 1.0000	x	1.8200	I	I	=	11.83	22.68		0.00	22.68	
	5	1-2	P	合板(厚3以上)	0.90	0.90	x	③ 1.0000	x	1.0000	III	IV	=	0.90					
	5	2-3	C P	石膏ボード張り(厚9以上) 合板(厚3以上)	1.10 0.90	2.00	x	③ 0.7000	x	0.9100	III	IV	=	1.27					
	5	3-4	C MTv	石膏ボード張り(厚9以上) 【12】モイスかべつよし真壁v	1.10 6.90	8.00	x	③ 1.0000	x	0.9100	I	I	=	7.28					
	6	1-2	P C	合板(厚3以上) 石膏ボード張り(厚9以上)	0.90 1.10	2.00	x	③ 0.7000	x	1.0000	III	IV	=	1.40					
	9	1-2	C	石膏ボード張り(厚9以上)	1.10	1.10	x	③ 0.9700	x	1.0000	III	IV	=	1.06					
梁間 (口)	9	4-5	3 KTU	筋かい木材30X90以上 釘打ち 【2】MDFかべつよし大壁入隅U	1.90 8.00	9.90	x	② 1.0000	x	0.9100	I	I	=	9.00	12.22			13.30	
	9	8-9	3 LB	筋かい木材30X90以上 釘打ち ラスボード	1.90 1.00	2.90	x	② 0.8200	x	0.9100	III	IV	=	2.16					
	9	2-4		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=						0.54
	9	5-8		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=						0.54
	合計																		39.93

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階X方向)

位置	Y	X	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 F_w (kN/m)		接合部 耐力低減 K_j		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様		Q_{wi}	Q_w = $\sum Q_{wi}$	Q_{ei}	Q_e = $\sum Q_{ei}$	Q_u Q_w+Q_e
桁行 (a)	9	4-6	P	合板(厚3以上)	0.90	0.90	x	① 1.0000	x	1.8200	-	IV	=	1.63	7.90	1.09	2.18	10.08
	9	6-7	MTv	【12】モイスかべつよし真壁v	6.90	6.90	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	6.27				
	9	2-4		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=					
	9	7-9		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=					
桁行 (中央)														0.00		0.00	0.00	
桁行 (b)	4	6-7	3 MTv	筋かい木材30X90以上 釘打ち 【12】モイスかべつよし真壁v	1.90 6.90	8.80	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	8.00	8.00			10.89
	4	2-6		窓型開口		0.60	x		x	3.0000			=		1.80			
	4	7-9		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=		1.09	2.89		
合計														15.90		5.07	20.97	

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

壁・柱の耐力 Q_u (2階Y方向)

位置	X	Y	記号	壁の仕様	仕様別 基準耐力	壁基準耐力 Fw (kN/m)		接合部 耐力低減 Kj		壁長 L (m)	基礎 形式	接合部 仕様		Qwi	Qw = $\sum Qwi$	Qei	Qe = $\sum Qei$	Qu Qw+Qe
梁間 (イ)	2	6-8	P	合板(厚3以上)	0.90	0.90	x	① 1.0000	x	0.9100	-	IV	=	0.81	2.05	1.09	1.36	3.41
	3	8-9	P	合板(厚3以上)	0.90	1.80	x	① 0.7600	x	0.9100	-	IV	=	1.24				
			P	合板(厚3以上)	0.90													
	2	4-6		窓型開口		0.60	x		x	1.8200			=					
	2	8-9		掃き出し型開口		0.30	x		x	0.9100			=		0.27			
梁間 (中央)	4	4-5	P	合板(厚3以上)	0.90	1.90	x	① 0.7300	x	0.9100	-	IV	=	1.26	9.59	0.54	1.35	10.94
			LB	ラスボード	1.00													
	4	8-9	P	合板(厚3以上)	0.90													
			P	合板(厚3以上)	0.90	1.80	x	① 0.7600	x	0.9100	-	IV	=	1.24				
	6	8-9	P	合板(厚3以上)	0.90	7.80	x	① 1.0000	x	0.9100	-	I	=	7.09				
		MTv	【12】モイスかべつよし真壁v	6.90														
	4	5-8		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=		0.54			
	6	4-8		掃き出し型開口		0.30	x		x	2.7300			=		0.81			
梁間 (ロ)	9	4-5	LB	ラスボード	1.00	1.00	x	① 1.0000	x	0.9100	-	IV	=	0.91	1.82	0.54	0.54	2.36
	9	8-9	LB	ラスボード	1.00	1.00	x	① 1.0000	x	0.9100	-	IV	=	0.91				
	9	5-8		掃き出し型開口		0.30	x		x	1.8200			=					
合計														13.46			3.25	16.71

木耐協研修所

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

耐力要素の配置等による低減係数 $e K f I$

偏心率

		偏心率	配置による低減係数
2 F	X方向	0.03	1.0000
	Y方向	0.06	1.0000
1 F	X方向	0.10	1.0000
	Y方向	0.05	1.0000

	2階		1階	
	X方向の壁	Y方向の壁	X方向の壁	Y方向の壁
剛心座標 y_s, x_s	2.660476	3.929594	4.289620	5.010966
重心座標 y_g, x_g	2.73	4.09	4.63	5.20
偏心距離 e_y, e_x	0.07	0.17	0.34	0.19
弾力半径 r_{e-x}, r_{e-y}	2.48	2.77	3.59	3.52
偏心率 R_{e-x}, R_{e-y}	0.028085	0.059597	0.096113	0.053861

2階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
1	0.91	0.91	7.28	4.55	23.19	2.00	46.38	94.96	189.92	63.31	126.62
合計					23.19		46.38	94.96	189.92	63.31	126.62

1階床面積の計算

ブロックNo.	左下X (m)	左下Y (m)	右上X (m)	右上Y (m)	ブロック面積 (A_i) (m^2)	床面積当たりの重量 (W_i) (kN/m^2)	面積X単位重量 ($A_i \cdot W_i$) (kN)	$A_i \cdot X_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot X_i \cdot W_i$	$A_i \cdot Y_i$ ($kN \cdot m$)	$A_i \cdot Y_i \cdot W_i$
B1	0.91	5.55	1.82	6.01	0.42	2.60	0.44	0.23	0.60	0.97	2.52
2	0.91	6.01	1.82	7.37	1.24	2.00	2.48	1.69	3.38	8.30	16.60
3	1.82	1.91	8.19	3.73	11.59	2.00	23.18	58.01	116.02	32.68	65.36
4	1.82	5.55	8.19	6.01	2.93	2.60	7.62	14.66	38.12	16.94	44.04
5	1.82	6.01	8.19	7.37	8.66	2.60	22.52	43.34	112.68	57.94	150.64
B6	8.19	5.55	9.56	6.01	0.63	2.60	0.66	2.24	5.82	1.46	3.80
7	1.82	3.73	8.19	5.55	11.59	2.60	30.13	58.01	150.83	53.78	139.83
B8	8.19	6.01	9.56	7.37	1.86	2.60	1.94	6.60	17.16	4.98	12.95
9	4.55	0.91	8.19	1.91	3.64	2.00	7.28	23.19	46.38	5.13	10.26
B10	8.19	3.73	9.56	5.55	2.49	2.60	2.59	8.84	22.98	4.62	12.01
合計					45.05		98.83	216.81	513.97	186.80	458.01

Bで始まる部分は上階のバルコニーの跳ね出し部分です。ブロック面積はそのままですが、面積×単位重量は0.4倍された値です。

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

重心位置の計算

階	床面積 (m^2)	$\Sigma A_i \cdot x_i$	$\Sigma W \cdot x$	ΣW (kN)	重心座標 x_g (m)	$\Sigma A_i \cdot y_i$	$\Sigma W \cdot y$	ΣW (kN)	重心座標 y_g (m)
2	23.19	94.96	189.92	46.38	4.09	63.31	126.62	46.38	2.73
1	45.05	216.81	513.97	98.83	5.20	186.80	458.01	98.83	4.63

2階X方向壁

	Y座標 (m)	l_x	$l_x \cdot y$	$l_x X$ $(y-y_s)^2$
1	4.55	6.28	28.57	22.42
2	4.55	1.64	7.46	5.86
3	4.55	1.09	4.96	3.89
4	4.55	1.09	4.96	3.89
5	0.91	1.09	0.99	3.34
6	0.91	8.01	7.29	24.54
7	0.91	1.80	1.64	5.52
合計	20.93	21.00	55.87	69.46

2階Y方向壁

	X座標 (m)	l_y	$l_y \cdot x$	$l_y X$ $(x-x_s)^2$
1	7.28	0.91	6.62	10.21
2	7.28	0.91	6.62	10.21
3	7.28	0.55	4.00	6.17
4	4.55	0.82	3.73	0.32
5	4.55	7.10	32.31	2.73
6	2.73	0.55	1.50	0.79
7	2.73	1.26	3.44	1.81
8	2.73	1.24	3.39	1.78
9	1.82	1.24	2.26	5.52
10	0.91	1.09	0.99	9.94
11	0.91	0.82	0.75	7.48
12	0.91	0.27	0.25	2.46
合計	43.68	16.76	65.86	59.44

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

1階X方向壁

	Y座標 (m)	lx	lx·y	lxX (y-ys) ²
1	7.37	0.91	6.71	8.63
2	7.37	0.91	6.71	8.63
3	7.37	8.01	59.03	76.00
4	7.37	1.09	8.03	10.34
5	7.37	1.64	12.09	15.56
6	6.01	2.36	14.18	6.98
7	6.01	1.36	8.17	4.03
8	4.64	8.19	38.00	1.01
9	4.64	1.87	8.68	0.23
10	4.64	0.55	2.55	0.07
11	0.91	0.97	0.88	11.08
12	0.91	0.82	0.75	9.37
13	0.91	6.19	5.63	70.70
14	0.91	6.46	5.88	73.79
合計	66.43	41.33	177.29	296.42

1階Y方向壁

	X座標 (m)	ly	ly·x	lyX (x-xs) ²
1	8.19	1.07	8.76	10.81
2	8.19	9.01	73.79	91.06
3	8.19	2.16	17.69	21.83
4	8.19	0.55	4.50	5.56
5	8.19	0.55	4.50	5.56
6	5.46	1.40	7.64	0.28
7	4.55	0.90	4.10	0.19
8	4.55	1.27	5.78	0.27
9	4.55	7.28	33.12	1.55
10	3.64	11.83	43.06	22.24
11	2.73	1.36	3.71	7.08
12	1.82	1.64	2.98	16.70
13	1.82	1.80	3.28	18.33
14	0.91	2.04	1.86	34.31
合計	70.98	42.86	214.77	235.75

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

劣化度による低減係数 dK

部位	材料、 部材等	劣化事象	存在点数		劣化 点数	
			10年未満	10年以上		
屋根 葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	2	
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある				
樋	樋・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	2	
外壁 仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	4	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある				
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある				
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある				
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2	2	
バル コ ニ ー	手す り壁	木製板、合板	1	①	1	
		窯業系サイディング				こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある
		金属サイディング				変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある
		外壁との接合部				外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	1	①	1	
内 壁	一般室	内壁、窓下	2	②	2	
		タイル壁				目地の亀裂、タイルの割れがある
	浴室	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	2	②	2
床	床面	一般室	2	②	2	
		廊下				傾斜、過度の振動、床鳴りがある
	床下	基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	2	
合 計			0	22	0	

劣化度による低減係数 dK 1 - (劣化点数/存在点数) = 0.9000

・補修後の診断における劣化低減係数の上限は0.9（現状が0.9を上回る場合は、その値）となります。

木耐協研修所邸

診断書作成日時:2026年04月09日15:37 Ver. 5.0.0

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

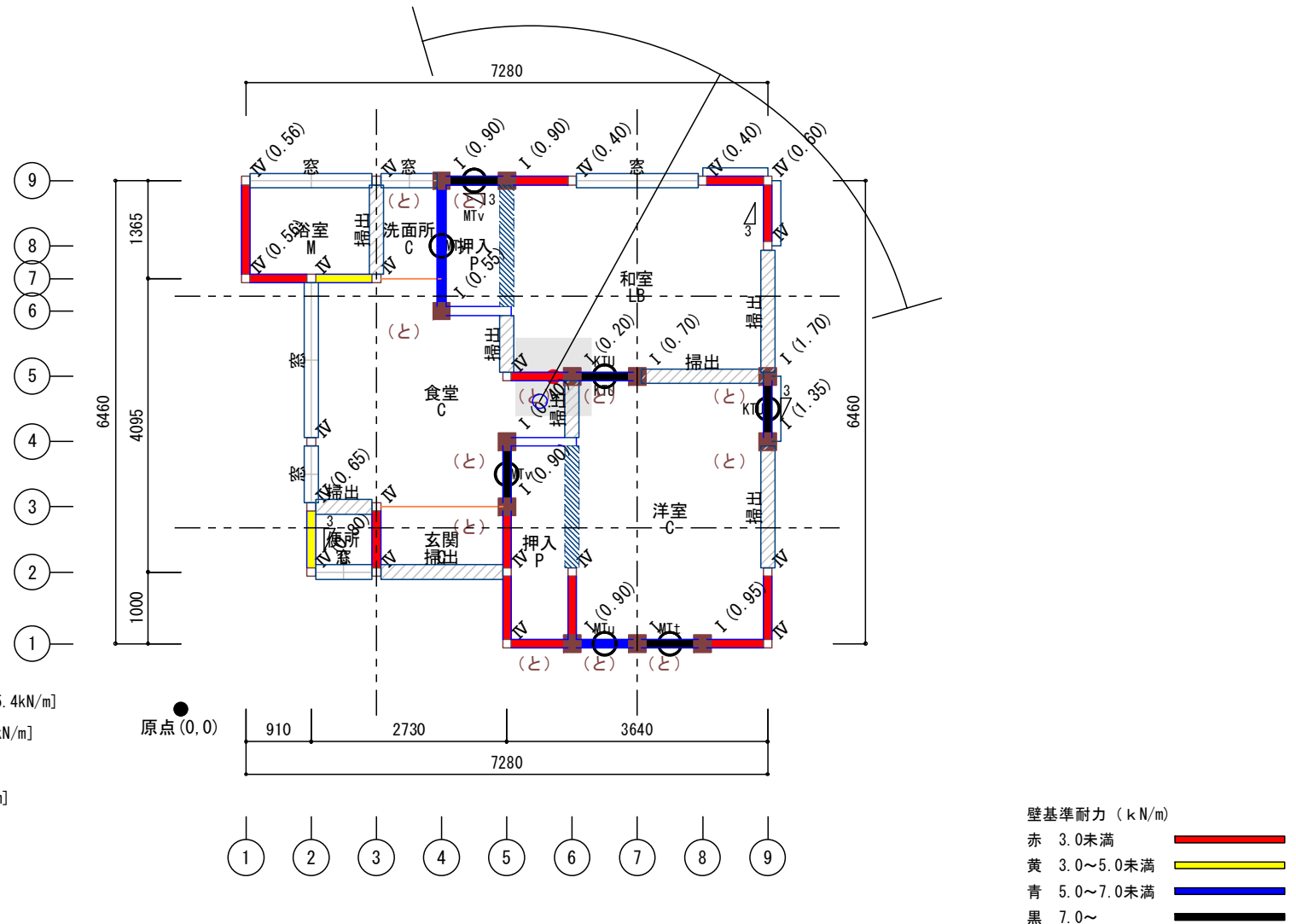
本書は、一般財団法人 日本建築防災協会発行の「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に基づき結果を出力しています。
本書の診断結果に問題が無くても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

N 値 計 算 書

■ 注意事項

- ・ N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。
- ・ 平成12年建設省告示第1460号第二号のただし書きから接合金物を求める方法（N値計算）に基づきN値を表示します。
- ・ N値計算の考え方には、(財)日本住宅・木材技術センターの書籍などに示された考え方等も考慮しています
- ・ 倍率の異なる耐力壁が直交して取り付く場合は、平面におけるX方向とY方向を区分してそれぞれのN値を計算し、大きい方のN値を採用します。
- ・ 1, 2階の軸組が1m以内でずれており、2階柱の直下に引抜き力を伝達する柱が無い場合、1, 2階の柱の位置が一致しているものとみなして計算を行います。

1階平面図



木耐協研修所

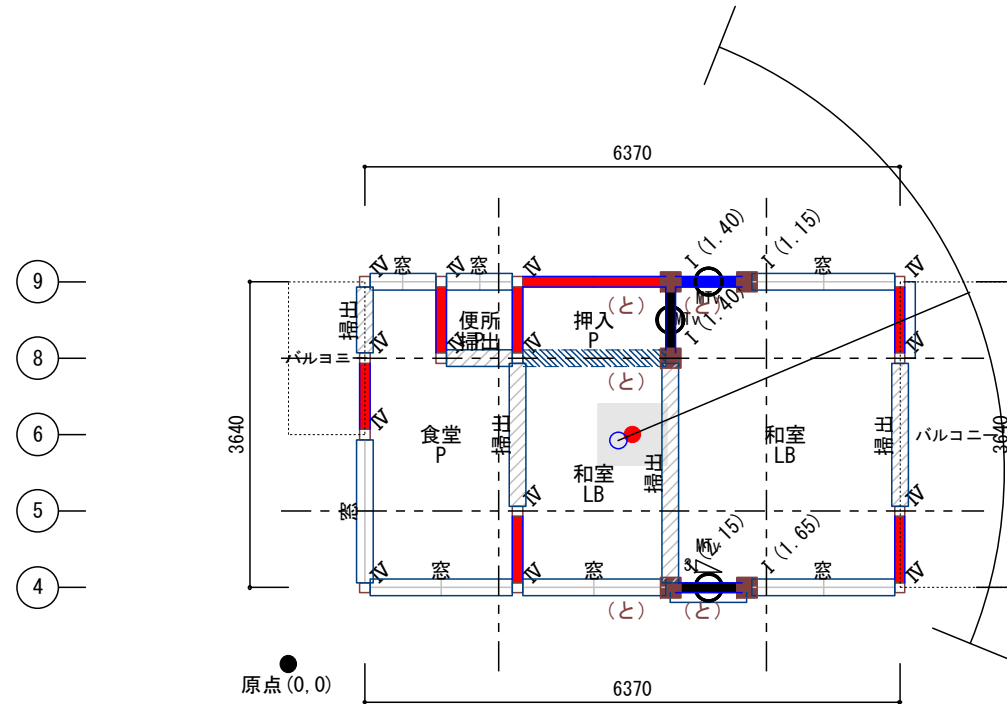
診断書作成日時: 2026年04月09日 15:37

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

2階平面図



凡例
 LB: ラスボード [1kN/m]
 P: 合板(厚3以上) [0.9kN/m]
 MTv: 【12】モイスかべつよし真壁v [6.9kN/m]
 3: 筋かい木材30X90以上 釘打ち [1.9kN/m]



壁基準耐力 (kN/m)
 赤 3.0未満
 黄 3.0~5.0未満
 青 5.0~7.0未満
 黒 7.0~

木耐協研修所邸

診断書作成日時: 2026年04月09日 15:37

物件コード:

補強案 1 0.35→1.01

N値計算の結果及びN値計算の結果に基づく金物記号等の表示機能については日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外であり、設計者が自身の責任において用いるものとなります。

N値計算 1階

計算式 $N値=A1 \times B1 + A2 \times B2 - L$

※A1, A2は補正値を反映済みの値です

X通り	Y通り	補正値	A1 壁倍率差 (1階)	B1	補正値	A2 壁倍率差 (2階)	B2	L	1階 N値
5	1	0	0.5	0.8				0.4	0
6	1	0	3	0.5				0.6	0.9
7	1	0	0.1	0.5				0.6	-0.55
8	1	0	3.1	0.5				0.6	0.95
9	1	0	0.5	0.8				0.4	0
2	2	-0.5	1.5	0.8				0.4	0.8
3	2	0	1	0.5				0.6	-0.1
5	2	0	0.5	0.5				0.6	-0.35
6	2	0	1	0.5				0.6	-0.1
9	2	0	0.5	0.5				0.6	-0.35
2	3	0.5	2.5	0.5				0.6	0.65
3	3	0	1	0.5				0.6	-0.1
5	3	0	3	0.5				0.6	0.9
2	4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	0	4	0.5				1.6	0.4
9	4	-0.5	5.1	0.5	0	0.5	0.8	1.6	1.35
5	5	0	1	0.5				1.6	-1.1
6	5	0	3.6	0.5				1.6	0.2
7	5	0	4.6	0.5				1.6	0.7
9	5	0.5	6.1	0.5	0	0.5	0.5	1.6	1.7
4	6	0	3.3	0.5	0	1	0.5	1.6	0.55
1	7	0	1.2	0.8				0.4	0.56
2	7	0	0.5	0.5				1.6	-1.35
3	7	0	1.7	0.5				1.6	-0.75
9	8	0.5	2.5	0.5	0	0.5	0.5	1.6	-0.1
1	9	0	1.2	0.8				0.4	0.56
3	9	0	0	0	0	1	0.5	1.6	-1.1
4	9	-0.5	4.5	0.5	0	0.5	0.5	1.6	0.9
5	9	0.5	5	0.5				1.6	0.9
6	9	0	0	0	0	4	0.5	1.6	0.4
8	9	0	0.5	0.5	0	3.5	0.5	1.6	0.4
9	9	-0.5	1.5	0.8	0	0.5	0.8	1	0.6

N値計算 2階

計算式 $N値=A1 \times B1 - L$

※A1は補正値を反映済みの値です

X通り	Y通り	補正値	A1 壁倍率差	B1	L	2階 N値
2	4	0	0	0.8	0.4	-0.4
4	4	0	1	0.5	0.6	-0.1
6	4	0.5	5.5	0.5	0.6	2.15
7	4	-0.5	4.5	0.5	0.6	1.65
9	4	0	0.5	0.8	0.4	0
4	5	0	1	0.5	0.6	-0.1
9	5	0	0.5	0.5	0.6	-0.35
2	6	0	0.5	0.5	0.6	-0.35
2	8	0	0.5	0.5	0.6	-0.35
3	8	0	1	0.5	0.6	-0.1
4	8	0	1	0.5	0.6	-0.1
6	8	0	4	0.5	0.6	1.4
9	8	0	0.5	0.5	0.6	-0.35
2	9	0	0	0.8	0.4	-0.4
3	9	0	1	0.5	0.6	-0.1
4	9	0	0.5	0.5	0.6	-0.35
6	9	0	4	0.5	0.6	1.4
7	9	0	3.5	0.5	0.6	1.15
9	9	0	0.5	0.8	0.4	0